

第 16 回精華町環境推進委員会 会議録

会議の名称		第 16 回 精華町環境推進委員会
開催日時		平成 30 年（2018 年）2 月 19 日(月) 10 時 30 分～12 時
開催場所		精華町役場 2 階 201 会議室
出席者	メンバー	上甫木委員（委員長）、中村委員（副委員長）、井澤委員、曾根委員、牟田委員、森田委員、山本委員
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長 精華町 健康福祉環境部 環境推進課 澤田課長、藤原係長、奥村主事
欠席者		畑中委員、前川委員
議 題		議事 ① 環境基本計画の年次報告（精華町の環境／平成 28 年度分）（案）について ② その他 ・平成 30 年度の精華町環境推進委員会開催等のスケジュールについて ・その他
資 料		資 料① 精華町の環境（平成 28 年度分）（案） 資 料② 平成 30 年度スケジュール（予定） 資 料③ 第 16 回精華町環境推進委員会名簿 参考資料① 第 15 回精華町環境推進委員会議事録 参考資料② 精華町の環境（平成 27 年度分）（平成 29 年 3 月発行）
傍 聴 者		なし

1. 開会

- ・委員紹介

- ・事務局紹介

- ・健康福祉環境部長あいさつ

2. 委員長・副委員長の選出

- ・委員長選出

精華町環境推進委員会規則第2条第1項の規定により、委員長は委員の互選により、上甫木委員に決定。

- ・委員長あいさつ

- ・副委員長選出

精華町環境推進委員会規則第2条第3項の規定により、委員長からの指名により、中村委員に決定。

- ・副委員長あいさつ

2. 議事

① 環境基本計画の年次報告（精華町の環境／平成28年度分）（案）について

上甫木委員長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思えます。事務局からの説明を受けたいと思えます。

事務局：資料①について説明させていただきます。

○資料説明（事務局） 資料①の特にP.9を中心に説明

上甫木委員長：今回は年次報告書について検討いただき、前回委員会の意見を受けて

P.9の環境推進委員会の評価の要点と町の対応を作成されたとのこと。何かご意見やご質問はございますか。

牟田委員：評価のまとめについては、精華町の環境に関する取り組みが発展しつつある

状況が伝わると良いのではないかと。

事務局：現在の環境基本計画は平成 23 年度からスタートしました。10 年目となる平成 32 年度に向けて、平成 31 年度を目途に住民団体の皆さんにも集まっていただいて総括を行いたいと考えている。昨年度、当委員会においてご検討いただいた、ごみの減量化についての取り組みについては、また、適切な時期が来たら、総括を行っていききたい。

森田委員：ごみの減量化について、分別に関しては、これまでの取り組みの結果、随分と住民に浸透してきている印象がある。

事務局：広報誌などを含めて、機会を捉えて情報発信を行っている。

上甫木委員長：先程の牟田委員の意見は大変重要な点だと思うので、平成 30 年度にはこの委員会でも、平成 31 年度以降の総括の方向性や、時期計画について検討しても良いのではないかと。

事務局：環境基本計画の策定以降、住民の皆さんにも環境に触れていただく機会が増えて来た。特に環境日記は、子どもたちが環境について考え、取り組むきっかけとして良いと考えている。全国の事務局の方から先日、過去に環境日記で賞をもらったお子さんが大学で環境を研究していると聞いた。町においても、賞をもらっている子どもさんも数多くおられるので、このような形で未来へ取り組みが繋がっていくことが望まれる。また、今後も、より一層、啓発活動も進めていきたい。

上甫木委員長：環境基本計画の 7 つのリーディングプロジェクトについても、計画策定の際には評価をしていく必要がある。

森田委員：人づくりもできるようなになるとさらに良い方向になると感じる。

中村副委員長：子どもはしがらみがないので、純粹である。次の見直しでは、子どもたちに意見を求めると良い意見が出てくるのではないかと。

上甫木委員長：今のお話をお聞きしていると、町の底力が高まって来る印象を受けた。子どもたちに精華町の環境を総括、評価してもらうのも面白いかもしれない。

事務局：環境に関する取り組みを見える化するために、現在、町のホームページで発生したごみの量を発表するなど情報による共有を図っている。町としては、行政と住民が一体となって進めていきたい。

井澤委員：私の場合、ホームページは殆ど見ない。ホームページを見る住民は限られるのではないかと。また、私の住んでいる地域では段ボールや缶・びんなどのごみは出るが、その他のリサイクルできる紙は殆ど出ていない状況である。声に出して、伝えていく場が無いとみんなわからないのではないかと。各自治会の環境委員の活用や女性の会、あすなろ会などに向けて、精華町環境推進委員会の名前で依頼をするなどすることは考えられないか。地域の周辺は耕作放棄地が多く見られる。耕作放棄地は、災害にも繋がっていくので、関係団体などに呼びかけやアピールができないか。水切りの推進などについても絞れば良いだけな

ので、アピールの工夫があれば、取り組みが進むと思われる。例えば、次世代の子どもに良い環境を残していくために、ごみ処理にかかる費用削減と長く焼却炉を使っていくためには水切りが有効です、なども考えられる。

事務局：その他のリサイクルできる紙についてのご意見は、それぞれの家庭でできる取り組みであるので、それを各家庭で行うと随分とごみの減量化が進むと思っている。

また、現在、町においても関係団体のみなさんの協力を得ながら、取り組みを進めている。具体的には、あすなる会と連携しながら出前講座や料理教室などで水切り等の実践とともに、チラシの配布などで啓発を図っていただいている。食品ロスについては、町内で食品ロスの削減のために何らかの行動をしている人の割合が、他の所管する課においてのアンケート結果からも、国の平均より低い状況となっている。これからも関係課と連携をとって、普及啓発を図るとともに、出前講座などについても実施しているところである。

井澤委員：自治会長の集まりに行き呼びかけると、自治会全てをまわる必要はないので、有効ではないか。

事務局：伝え方は色々あると感じる。現状ではホームページや広報誌が中心となっているが、今後は、ご意見いただいたように集まりに出て行ってご説明させていただくなど双方向の取り組みが必要と考えている。現在、町においては健康や高齢者への取り組みの中で、メイトさんを作り、働きかける人材を行政が育成し、小グループで仲の良い友達と仲間づくりをして実践する仕組みづくりに取り組んでいる。具体的に運動しようという取り組みを行っているが、このような方法が環境に関する取り組みにおいても展開できないか見守りたい。

また、子ども会など窓口に来てくださる団体には、お声がけはさせていただいているが、担当者が毎年変わられる所も多くなかなか難しい状況であるのが現状である。

上甫木委員長：これまでは、P. 9の情報発信の工夫などに関連する議論だとは思いますが、環境委員を各自治会で設置していただけると、情報伝達がきめ細やかになるのではないかと。自治会の中でテーマ毎に、地域単位で情報伝達する手段があるものすごく強いと思う。

中村副委員長：私の住んでいる地区では、家の前で収集されている場所もあるが、ステーション単位であれば周知がしやすいと思う。前回の委員会で生ごみ処理機の補助がある話が出ていたが、費用対効果が期待できるのであれば、補助額を増額するという形での啓発もあり得ると考えるが、ごみ処理の費用対効果の試算などはあるのか。また、自治会単位の普及啓発については、自治会それぞれの考え方があってちょっと難しいと思う。

牟田委員：リサイクルする上で一番気になるのは機密保持である。今のリサイクルそのものが、安心して出せるのか出せないのかを確認できていないので、その他の

リサイクルできる紙として出すことをためらってしまう。機密保持について安心できるルートが確保されている、安心して出せると伝わるとリサイクル率も上がるのではないか。

井澤委員：私自身は名前や住所などの個人情報マジックで消して古紙で出したり、物によっては燃やすごみで出している。

事務局：ごみ処理費用に関しては、町では平成 26 年度は一人当たりの年間処分費が 8,300 円、京都府が 16,900 円、全国平均が 17,400 円となっている。また、その他のリサイクルできる紙については、まずは、お菓子の箱やトイレットペーパーの芯などについて、古紙回収として出していただくために普及啓発に取り組みたい。

山本委員：啓発ではインターネットや回覧は高齢化社会では見てもらえない。高齢者を多く抱えている地域ではサロンや健康体操などを行う集まりがあるが、DVDなどで映像を作ってもらえたら、役場職員が説明に出向かなくても、その映像を見ることで、伝えることができる。

曾根委員：2、3年前までは環境ネットワーク会議のごみ部会で人形劇で地域を回っていた。地域はたくさんあるが、なかなか声がかからなかった。環境でごみの分別となるとあまり興味が無いようだ。ごみに困ってらっしゃる地域は地域の委員の意識が高い。自治会の長が集まった場で行政から訴えていただくことは有効である。

山本委員：自治会も役員が一年毎に変わる状況なので、なかなか難しい状況ではある。

上甫木委員長：このような課題について、環境プラットホームで検討することが考えられないか。情報発信の手段として連携が考えられないか。

事務局：環境プラットホームでは、町内の全図を用いて、町内で環境にかかる活動をされている団体等の状況を共有する取り組みをスタートし、この場所でこのような団体が活動されている等、情報を得ていただきながら、当該団体の活動が広がること等を期待している。参加者のみなさんが、楽しくやっというこの前向きな気持ちを持てるよう、このような取り組みも入れながら工夫をしている。

曾根委員：私の地域では、集会所にペットボトルを持って行っているが、山盛りである。ペットボトルを潰さず、ラベルも剥がしていない。普及啓発については、回数を重ねる必要もあり、地道に取り組む必要がある。

井澤委員：随分と、ペットボトルの中を洗うことは進んできた。ラベルを剥がす取り組みも進んできた。リサイクルしやすい社会をみんなで作っていく必要がある。商品売る会社に対してリサイクルしやすい商品の工夫を申し入れることなどについては行政からも働きかけていただかないといけない。

森田委員：井澤委員の意見を聞いて、実感が出て来た。

井澤委員：例えば、ペットボトルが潰しやすいものは評価されるなど。そのような企業が評価される必要がある。

事務局：先ほどの井澤委員の話で、京都府で意見交換などをできる場があるので、町としても京都府に伝えていきたい。

上甫木委員長：今の議論についても、次の環境基本計画の策定の中で、形にしていくと良いのではないかと。

中村副委員長：リサイクルする装置に補助金をつけるなどすると、もっと町民に浸透していくのではないかと。

事務局：補助金では生ごみ処理器などの申請に来ていただいている。町の方で何ができるのか検討していきたい。

上甫木委員長：ごみの処理量が減れば焼却場への町の負担も減るので、このあたりの情報を住民のみなさんに分かりやすく伝えられると良い。

上甫木委員長：P. 9 の情報発信の部分は私と事務局で確認させていただいて、本日の議論について加筆することとしてよろしいでしょうか。

各委員：了承した。

② その他

上甫木委員長：それでは引き続きまして、その他として、平成 30 年度の委員会の開催スケジュールについて説明をお願いします。

○資料説明（事務局） 資料②について、本委員会を中心に説明

上甫木委員長：来年度の精華町環境推進委員会開催等のスケジュールについて、何かご質問等ございませんか。

上甫木委員長：先ほど出ていた、環境基本計画の見直しについては、平成 31 年度から本格的に検討するとのことによろしいでしょうか。

事務局：平成 31、32 年度にかけて策定の予定で考えています。

事務局：次回は平成 30 年 10 月頃の開催を予定いたしております。よろしくお願いいたします。

3. 閉会

事務局：本日はお忙しい中、長時間に渡りご参加を賜り誠にありがとうございました。

(以上)